

## 中学校第3学年 英語科学習指導案

日 時 令和元年6月11日(火) 2校時

### 1 単元名 Presentation 1 日本文化紹介(NEW HORIZON English Course 3 東京書籍)

### 2 単元について

#### (1) 単元観

平成29年3月に示された新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が明確化され、すべての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。また、それらの資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められている。外国語の学習においては、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組に主眼が置かれ、生涯にわたる様々な場面において、外国語を生きたツールとして使える人材を育成することが喫緊の課題となっている。

本単元では、慎が日本の伝統的な品物を外国の人に紹介する場面を取り扱う。グローバル化の急速な進展や東京オリンピック・パラリンピック開催という社会的な背景を鑑みると、生徒が日本の伝統や文化について発信する機会は明らかに増えていくと考えられる。そこで、実生活でも起こりうる場面を想定し、日本文化を外国の人に紹介するビデオレターを制作するパフォーマンス課題を設定した。この課題を探究することで、生徒が構成(Introduction→Body→Conclusion)を意識して内容的にまとまりのある文章を書く力や簡単な語句や基本的な表現を用いて分かりやすく発表する力が高まることを期待する。

#### (2) 生徒観

本学級の生徒は、ペアやグループでの活動において他者と協力して学習を進めることができおり、意欲的に活動に取り組む生徒が多い。一方で、事前に行った英語の学習に対するアンケートによると、「英語の学習は好きだ」という項目に対して半数以上の生徒が「どちらかと言えば当てはまらない」もしくは「当てはまらない」と答えており、英語の学習に対する関心は高いほうではない。また、生徒の多くが「話すこと」と「書くこと」に対して苦手意識をもっており、基本的な語彙や文構造などの定着が不十分なことや内容的にまとまりのある文章を書いたり話したりすることに抵抗感を抱いていることが要因として考えられる。

#### (3) 指導観

本単元では、生徒の英語に対する興味・関心を喚起し、学びに向かう力を高めるため、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の実現を目指し、当センターで作成した「授業振り返りシート」及び「手立てシート」\*1を用いて授業づくりを行う。具体として、授業を展開するに当たって以下のような手立てをとる。

- ① 生徒が主体的に学習に取り組もうとする態度を育成するため、パフォーマンス課題として、以下のような authentic な課題を設定する。

来日予定のキャリスさんに日本文化を紹介するビデオレターを送ろう！

～相手の知りたい情報を分かりやすく説明するためにはどうしたらよいか？～

野田先生の友達のキャリスさんが来日し、1週間滞在する予定です。キャリスさんは今、日本で何をするか予定を立てています。その参考にするために、みんなに日本の伝統的な品物や食べ物、行事、流行しているものなどを教えてほしいそうです。お勧めの日本文化を紹介するビデオレターを作成し、キャリスさんに送りましょう！

また、生徒に単元計画表を提示し、単元のゴールに向けて見通しをもって学習を進めることがで

きるようにする。加えて、各授業や各活動でねらいやルーブリックを示し、目標を達成できたか振り返る時間を設ける。

- ② 生徒の基礎的・基本的な知識・技能の定着とその活用する力の向上を目指し、帯活動を設定する。毎時間 10 分程度、日本文化紹介のモデルを載せた Useful Expressions を用いて、input 活動を継続的に行う。
- ③ 生徒の「書くこと」や「話すこと」への苦手意識払拭のため、モデルを示したり mapping を用いてアイデアを視覚化したり、small step で指導を進めていく。
- ④ 生徒が他者と対話する場を仕組むことで、活動に対する意欲が高まり、英語の表現も豊かになっていくと考える。そこで、撮影リハーサルを行い、他者の発表からよさを吸収したり自分の発表を修正・改善したりする場を設ける。

※1 平成 29・30 年度佐賀県教育センター「プロジェクト研究」(中学校英語科教育研究委員会)で作成した「授業振り返りシート」及び「手立てシート」参照

### 3 単元目標

- 他者と協力したり自分で目標を立てたりしてコミュニケーション活動や発表練習に取り組む。  
(ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 日本文化について相手に分かりやすく※2説明する。  
(イ 外国語表現の能力)
- 慎の日本文化についての紹介文の内容を理解し、発問に答える。  
(ウ 外国語理解の能力)
- 正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付ける。  
(エ 言語や文化についての知識・理解)

※2 10 本単元で用いるルーブリック参照

### 4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
他者と協力したり自分で目標を立てたりしてコミュニケーション活動や発表練習に取り組んでいる。	① 日本文化について内容的にまとまりのある紹介文を書くことができる。 ② 日本文化について相手に分かりやすく説明することができる。	慎の日本文化についての紹介文の内容を理解し、発問に答えることができる。	正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。

### 5 単元の指導計画 (全 4 時間 本時 3 / 4)

手立て:〈主〉⇒主体的な学び 〈対〉⇒対話的な学び 〈深〉⇒深い学び

時	【評価規準】と [評価方法]	・学習活動	手立て
1	【評価規準】 ア ペアで協力して音読活動に取り組んでいる。 [評価方法] 活動の観察 ウ 慎の日本文化についての紹介	・教師が提示した学習計画表を見ることで、本単元の見通しをもち、本単元で何ができるようになるかゴールの姿を理解する。 ・キャリスさんのビデオレターを見ることで、相手の知りたい情報をつかむ。 ・教師の日本文化についての紹介モデルを見ることで、ゴールの姿をイメージする。 ・慎の日本文化についての紹介文を読んで、発問に	〈主〉  〈主〉〈深〉  〈主〉  〈主〉

	文の内容を理解し、発問に答えることができる。 [評価方法] 活動の観察, ワークシート	について考える。	
2	【評価規準】 イー① 日本文化についての内容的にまとまりのある紹介文を書くことができる。 [評価方法] ワークシート エ 正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。 [評価方法] ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化についての紹介文のモデル原稿を確認することで、その構成(Introduction→Body→Conclusion)をつかむ。</li> <li>・「書くこと」に関するルーブリックを確認することで、原稿の書き方のコツをつかむ。</li> <li>・キャリスさんに紹介したい日本文化について mapping することで、アイデアを視覚化する。</li> <li>・ルーブリックを意識しながら、mapping を基に日本文化についての内容にまとまりのある紹介文を書く。個人で原稿を書いた後に、4人グループを作り、互いの原稿を推敲する。</li> </ul>	<p>〈主〉</p> <p>〈主〉</p> <p>〈対〉〈深〉</p> <p>〈主〉</p>
3 本時	【評価規準】 ア 目標を達成しようと主体的に発表練習に取り組んでいる。 [評価方法] 活動の観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと(発表)」に関するルーブリックを確認することで、発表の仕方のコツをつかむ。</li> <li>・ルーブリックを基に自分で目標を設定し、撮影リハーサルに向けて練習する。</li> <li>・撮影リハーサルにおいて、グループで互いの発表を評価することで、自分の発表の良い点と改善点を把握する。</li> <li>・自己評価・他者評価を基に再度練習を行うことで、発表の修正・改善を図る。</li> </ul>	<p>〈主〉</p> <p>〈主〉</p> <p>〈主〉〈対〉</p> <p>〈深〉</p>
4	【評価規準】 イー② 日本文化について相手に分かりやすく説明することができる。 [評価方法] ビデオの録画記録, 評価シート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリックを基に目標を再確認し、最後の練習に取り組む。</li> <li>・キャリスさんへのビデオレターを撮影する。</li> <li>・自己評価・他者評価を行うことで、単元を通して自分の成長した点や今後伸ばしていくべき点を把握する。</li> </ul>	<p>〈主〉〈深〉</p> <p>〈主〉〈深〉</p> <p>〈主〉〈深〉</p>
事後		<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリスさんからのビデオレターの返事を見る。</li> <li>・キャリスさんが採用した理由(発表の評価のポイント)を知り、新たな課題を発見する。</li> </ul>	<p>〈主〉〈深〉</p> <p>〈主〉〈深〉</p>

## 6 本時の目標

- ・自分で設定した目標を達成しようと主体的に発表練習に取り組む。

(ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

## 7 指導の視点

- ・ルーブリックや練習メニューを提示したことで、生徒が主体的に発表練習に取り組むことができたか。〈主〉

- ・ 撮影リハーサルを設けたことで、生徒が他者の発表のよさや自分の発表の改善点に気付き、より具体的な視点をもって、発表の質を高める練習ができたか。〈主〉〈対〉〈深〉

## 8 本時の展開 (3/4)

	学 習 活 動	教師の働き掛け(○)	評価 [方法]
導 入	1 帯活動を行う。	○ビデオレターに用いる表現を継続して練習させることで、本番で活用できるようにする。	
	2 本時の見通しをもつ。		
めあて：目指せ！自己目標達成！！～撮影リハーサルを通して自分の発表をパワーアップさせよう～			
展 開	3 ループリックを確認する。	○ループリックを示すことで、本時で到達すべき目標を具体的にイメージができるようにする。	ア 自分で設定した目標を達成しようと主体的に発表練習に取り組んでいる。[活動の観察]
	4 Practice Time①に取り組む。	○生徒自身に目標を設定させることで、主体的に練習に取り組むことができるようにする。 ○具体的な練習メニューを示すことで、 <b>small step</b> で目標に迫ることができるようにする。	
	5 撮影リハーサルを行う。	○ループリックを基に互いの発表を評価させることで、他者の発表のよさや自分の発表の改善点に気付くことができるようにする。	
	<p>撮影リハーサルのもち方 形態：4人グループ 手順：① 発表(1分) ② 評価シートの記入(3分)</p>		
	6 Practice Time②に取り組む。	○他者の発表のよさや自分の発表の改善点を意識させて練習させることで、発表の質を高めることができるようにする。	
ま と め	7 振り返りをする。	○自己評価させることで、自己の成長を実感させ、次時までの課題を見付けることができるようにする。 ○よかったところを褒めて、次時に目標達成ができるように励ます。	

## 9 本時の評価規準と判定基準

本時の評価規準	判定する生徒の姿と指導の手立て
ア 自分で設定した目標を達成しようと主体的に発表練習に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 設定された時間を十分に使って繰り返し何度も練習している。 <input type="checkbox"/> 発音やイントネーションなど、分からないところを質問しながら練習している。 <input type="checkbox"/> 目標達成のために適切な練習メニューを選択して練習している。 <input type="checkbox"/> ループリックの「工夫」や「その他」の項目を基に練習している。 A 上記の2つ以上の姿を満たしている。 B 上記の1つの姿を満たしている。 C 設定された時間を十分に使って練習していない。

	<p>【Cと判断した生徒への支援】 ループリックを基に達成できそうな目標と一緒に設定し、練習に取り組むことができるようにする。</p>
--	---

10 本単元で用いるループリック

(1) 「書くこと」に関するループリック

	内容	文の数	語彙・文法	その他
A:3点	自分のお勧めの日本文化を紹介している。そのことについて具体的に説明している。また、なぜお勧めなのかを理由を述べている。	Body を5文以上で書いている。	語彙や文法の間違いが2つ以下である。	<input type="checkbox"/> 構成(Introduction →Body→Conclusion)を意識して書いている。
B:2点	自分のお勧めの日本文化を紹介している。そのことについて具体的に説明している。	Body を4文で書いている。	語彙や文法の間違いが3～5つある。	<input type="checkbox"/> 受け身の文を用いている。
C:1点	自分のお勧めの日本文化を紹介している。	Body が3文以下である。	語彙や文法の間違いが6つ以上ある。	<input type="checkbox"/> 理解しやすい単語や文で書いている。

(2) 「話すこと(発表)」に関するループリック

	声	視線	ビジュアルエイド	工夫
A:5点	相手が聞き取りやすいように、はっきり大きな声で発表している。	ビデオカメラを見ながら発表している。	話に合わせてタイミングよく写真やジェスチャーを使っている。	<input type="checkbox"/> 適切なスピードで発表している。 <input type="checkbox"/> 適切な間を取りながら発表している。
B:3点	時々聞き取りにくい声で発表している。	時々原稿に目を落としながら発表している。	写真やジェスチャーを使っている。	<input type="checkbox"/> 表情が豊かである。 <input type="checkbox"/> ビジュアルエイドを指し示しながら発表している。
C:1点	聞き取りにくい声で発表している。	原稿を読んでいる。	写真やジェスチャーを使っていない。	<input type="checkbox"/> 伝えたい部分をゆっくり言ったり繰り返したりしている。